

代表 1

受付	令和 4 年 2 月 22 日 午前・午後 9 時 00 分
----	-----------------------------------

一般質問（代表・個人）通告書

令和 4 年 2 月 22 日

尾張旭市議会議長 殿

公明党尾張旭市議団

氏名 芦原 美佳子

尾張旭市議会議規則第 50 条第 1 項の規定により 3 月定例会において別紙のとおり質問したいので通知します。

なお、質問事項の件数及び質問方法は、下記のとおりです。

記

1 質問事項 11 件

2 質問方法

	1 回目 一括質問、一括答弁 再質問以降 質問事項（大項目）ごとに一問一答
<input type="radio"/>	1 回目から 質問事項（大項目）ごとに一問一答

↑ 選択する方法に○を付す。



別紙

氏名 芦原 美佳子

質問事項 No. 1	令和4年度当初予算編成について
要旨	本市の令和4年度当初予算案は、一般会計予算額は過去最高額で265億3000万円で、対前年度比約7%の増額となっています。また、市税全体では前年度比約6%増の、6億9910万円の增收が見込まれております。新型コロナウイルス感染拡大に歯止めがかからず、コロナ禍の影響が長期化し、先行きが不透明な中、どのような方針のもとで予算編成をされたのか伺います。

* 申し合わせ事項に留意する。

別紙

氏名 芦原 美佳子

質問事項 No. 2	新型コロナワクチン接種の推進について
要旨	<p>新型コロナウイルスの変異株（オミクロン株）の感染拡大が続くな、現在流行中の型とは変異の仕方が異なる型（亜型）が見つかり警戒感が強まっています。</p> <p>本市では、3回目ワクチン接種の加速化に向けて、またこれからスタートする5歳から11歳を対象とした小児へのワクチン接種を安全・安心・円滑に進めるために、どのように取り組まれていくのでしょうか。体制や情報提供等、その対策について伺います。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

質問事項	子育て支援について
No. 3	
要旨	<p>(1) 子ども医療費助成の拡大について</p> <p>本市の子ども医療費助成の対象年齢は、通院は15歳まで、入院費については今年度から、高校生世代までに拡大されました。厚生労働省の調査結果によると、2020年4月時点で、通院費助成の対象を「中学3年生まで」としている市区町村は全国1741市区町村中、873（前年比50減）で最多、次いで「高校3年生まで」が733（同74増）という状況です。</p> <p>愛知県内でも医療費無償化の通院・入院とともに18歳まで実施する自治体が少しずつ増えています。次代を担う子どもたちが、必要な時に必要な医療を安心して受けられるよう、子ども医療費の助成制度を通院も18歳まで拡大することについて、市長の見解を伺います。</p> <p>(2) 産前産後の支援について</p> <p>コロナ禍の長期化により、妊婦及び産後の親子の孤立が深まり、産後うつの深刻化が大きな社会問題となっています。子育てひろばの閉鎖や、産前の両親学級などの中止、行動制限の影響は非常に大きく、今までと同じ形の子育て支援だけでは親子の孤立や産後うつを防ぐことは難しい状況下にあります。地域のつながりが薄れる中で、産前産後のサポートは、相談する場を失った母親の悩みや孤立感を取り除き、産後うつや児童虐待の予防にも結び付くとても重要な支援です。産前産後の支援についての見解と本市の取組について伺います。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

質問事項	教育について
No. 4-1	<p>(1) G I G Aスクールにおける学びの充実について</p> <p>施政方針ではG I G Aスクール構想により導入したタブレット端末等を活用し、引き続き、デジタル化によるきめ細やかな教育を実施すると述べられました。コロナ禍の学級閉鎖や休校によりその利活用がさらに注目をされています。また、国では令6度をデジタル教科書の本格的な導入に向けて、児童生徒の学びの充実や障害等による学習上の困難の低減に資するよう、学校現場におけるデジタル教科書の導入をさらに促進されるところです。</p> <p>これまで活用しての効果や課題、今後の推進について伺います。</p> <p>(2) 小中学校における英語教育について</p> <p>グローバル化が進展する中で、国際共通語である英語力の向上は、子どもたちの様々な可能性をひらいていくためにも、とても重要です。学習指導要領の改訂に伴い、コミュニケーション能力の育成の重要性を挙げ、2020年4月から小学5・6年生の英語を教科化し、教科書を用いて話す、聞くだけでなく、読み書きについても学習を行っています。また、小学校3、4年生では外国語活動が行われています。本市の英語教育の現状と課題、今後の推進について伺います。</p> <p>(3) 保育園における英語教育について</p> <p>小学校からの英語教育に伴い、保育園での英語教育のニーズが高まりつつあります。幼少期からネイティブの英語の発音に親しんでもらおうと、小中学校で英語を教えるALT（外国语指導助手）による「えいごあそび」を始めている公立保育園もあります。東郷町では保護者のニーズを受けて、子どもたちに多様性を身に着けてもらおうと英語活動を導入しています。保育園における英語教育について本市の見解を伺います。</p>
要旨	

※ 申し合わせ事項に留意する。

質問事項 No. 4-1	教育について
要旨	<p>(4) 学校体育館のエアコン設置について</p> <p>文部科学省のホームページには公立学校施設の空調（冷房）設備の今後について、体育館に関しては「災害発生時において地域の避難所としても利用される既存体育館への空調設備の設置については、校舎の空調設備の設置が進むにつれ、設置計画の検討が進むと考えられます。一方で、既存体育館の多くは断熱性能が確保されておらず、冷暖房効率が悪いことが課題となっております。このため、文部科学省としては、体育館本体の建替えや全面的な改修工事に併せ、断熱性能を確保した上で空調を設置するなど、各地方公共団体においても対策を検討していただいた上で、引き続き、教育環境改善に取り組んでまいります」とあります。</p> <p>市長がエアコン設置に向けた検討を英断された経緯、どのようなポイントに重点を置いて導入を検討していくか、改めて学校体育館のエアコン設置の方針、今後のスケジュールについて伺います。</p>

* 申し合わせ事項に留意する。

別紙

氏名 芦原 美佳子

質問事項 No. 5	社会的孤立防止と生活困窮者への支援体制強化について
要旨	コロナ禍により、これまで以上に孤独や孤立、困窮といった問題が顕在化、深刻化しています。これまで生活困窮者自立支援、8050問題、引きこもりの社会復帰支援・アウトリーチ等、議会で取り上げてきましたが、本市の新年度重点事業において、生活困窮者自立支援法の就労準備支援事業やアウトリーチ支援員の配置等が掲げられ、これから取組に期待するところです。新たな取組が始める背景、社会的孤立防止と生活困窮者への支援体制強化について、これまでとの違い、今後どのように進められていくのか伺います。

* 申し合わせ事項に留意する。

別紙

氏名 芦原 美佳子

質問事項 No. 6	がん患者のアピアランスケア支援の推進について
要旨	<p>がんの生存率は、治療の進歩などによって上昇傾向にあり、早期発見・治療をすれば十分治る病気となりつつあります。また、生存率の上昇や通院治療が可能となることに伴い、日常生活と治療を両立させることも大きな課題となっています。がん診断時に仕事をしていた人が4割以上に上る現状から、治療と仕事の両立支援が重要であるとともに、がん治療に伴う外観（アピアランス）の変化への対処についても、社会参加を促進する観点から支援していく必要があるものと考えます。愛知県の新年度予算（案）には、アピアランスケア支援について、市町村に対する助成制度の創設が盛り込まれました。</p> <p>改めて、がん患者のアピアランスケア支援について、市長のお考えを伺います。</p>

* 申し合わせ事項に留意する。

質問事項 No. 7	高齢者施策について
要旨	<p>(1) フレイル予防について</p> <p>新型コロナ感染防止対策のステイホームや外出自粛による、高齢者の健康二次被害が懸念されています。健康な高齢者が2週間家の中であまり動き回らないようにすると、脚の筋肉量が3.7%減少したという報告もあります。フレイル予防の3つのポイントとして、栄養・運動・社会参加があげられますが、社会参加の制限により人と会う機会が減り、自粛生活で運動量の減少も心配されるところです。そこで、ウィズコロナ・アフターコロナにおけるフレイル予防についての見解、また今後の取組について伺います。</p> <p>(2) 認知症施策の充実について</p> <p>認知症の予防や早期発見の取組とともに、認知症になんでも、住み慣れた地域で安心して暮らしていく社会の実現はとても重要です。認知症高齢者等が、日常生活における偶発的な事故で法律上の損害賠償責任を負った場合に備え、市が契約者となり個人賠償責任保険に加入する事業が近隣市で広がっています。認知症の方や御家族を支えるこのような取組も今後さらに必要になるとを考えますが、認知症施策を今後どのように充実させていくのか見解を伺います。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

別紙

氏名 芦原 美佳子

質問事項 No. 8	三郷駅周辺まちづくりの推進について
要旨	<p>本市は、三郷駅周辺まちづくりの推進のため、昨年（令和3年）8月に都市計画決定及び変更を行いました。いよいよ事業化に向けた取組が進められていきます。地元の皆様の長年、まちの活性化を切に願い、長年、御尽力されてきた地元の皆様のご努力がいよいよ実現に向かい前進していきます。</p> <p>市民にとって、「住みやすい街・誇りに思う街」に。また、転入を促す「選ばれる街」への期待が高まる次世代につながる事業であると考えます。</p> <p>これから本市においても課題となる人口減少にむけての対策や、コンパクトシティ化、魅力あるまちづくりに貢献するこの事業の推進について、現段階でのスケジュール、市長の抱負を伺います。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

質問事項 No. <u>9</u>	子どもたちや若い世代の提言を市政に反映させることについて
要旨	<p>尾張旭市議会では、尾張旭市制 50 周年を記念し、県立旭野高校の生徒の代表とともに、高校生議会を実施しました。</p> <p>参加した高校生議員は 3 つの委員会に分かれ、それぞれが取りまとめた「私たちの提言（案）」をテーマに各常任委員会との意見交換を実施し、最終的な「私たちの提言」は、代表生徒から尾張旭市議会議長へ提出されました。</p> <p>若者の視点から、本市の課題を取り上げ、調査し、その解決策を提言するとても有意義な取組であったと感じています。</p> <p>これまで市当局が実施されてきた子ども会議においては、未来を担う子どもたちの提案を可能な限り形にされてきました。</p> <p>子どもたちや若い世代の提言を市政に反映させる、形にするという取組を市長はどういうお考えでしょうか？</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

質問事項 No. 10	デジタル社会に向けて
要旨	<p>(1) 行政デジタル化への取組について</p> <p>コロナ禍において我が国のデジタル化の遅れが浮き彫りとなり、行政のデジタル化の推進のため、昨年9月に「デジタル庁」がスタートしました。今後、国や地方自治体の情報システムを統括し、行政サービスを抜本的に向上させることとなります。施政方針において、マイナンバーカードのさらなる普及促進や行政手続きのオンライン化など行政サービスの更なる利便性の向上を図る。また「国のデジタル田園都市国家構想を踏まえ、デジタル化を推進し、…」と述べられましたが、行政デジタル化について、どのように取り組まれるのでしょうか？</p> <p>(2) 女性のデジタル人材の育成について</p> <p>政府として、女性デジタル人材育成を推進する方針を決定しています。国の地域女性活躍推進交付金を活用して、本市でも取り組むべきだと考えますが、市長のお考えを伺います。</p>

* 申し合わせ事項に留意する。

別紙

氏名 芦原 美佳子

質問事項 No. 11	窓口サービスの向上について
要旨	デジタル化の推進により、行政手続きのオンライン申請など、今後さらに市民サービスの向上が期待されます。一方で、高齢化に伴い、窓口での手続きにサポートを必要とする市民も増加することが予測されます。新型コロナワクチン接種のオンライン申請はとても便利で多くの方が利用されました。数日設けられた代行申請窓口もとても助かったと利用された市民よりお聞きしました。どちらも便利で、どちらも重要です。特に複雑な手続きは高齢化に伴い、新たな市民サービスが必要ではと考えます。書かない窓口、おくやみコーナーなどが広がりつつある中、本市では高齢化に伴う窓口サービスの向上をどのように対応していくのでしょうか？また、コロナ禍の中で多くの店舗ではキャッシュレス決済やセミセルフレジが感染対策として増加しました。庁舎窓口でも高齢化やウイズコロナ・アフターコロナへの対応が求められるものと思いますが、市長のお考えを伺います。

※ 申し合わせ事項に留意する。